



2017年の本学会の 活動を振り返って

(公社)日本麻酔科学会理事長

稲田 英一



2017年は、本学会にとって例年にも増して至難の年であったと同時に、それらの至難に立ち向かい、克服した充実した年でもあった。2017年の事業内容を振り返ってみたい。

最大の課題は新専門医制度への移行であった。本学会は既に日本専門医機構の整備基準に沿った教育・認定事業を推進してきた。厚労省検討会、都道府県協議会などから「地域医療を守れ」という強い要望がだされ、都市部での専攻医採用に上限を設けることになった。教育委員会を中心に、施設の要件や希望定員、過去実績等を参考に綿密な計画と厳格な方針が策定され、最終的には大きな問題なく新専門医制度へ移行できることになった。採用応募者数は全基本領域中で5番目の多さであった。定員以上の応募者があった場合には、本年度および次年度で対応することとなった。専門医試験も滞りなく実施され、来年度は453名の新専門医が誕生することになった。関連領域検討委員会では、麻酔科のサブスペシャリティとして集中治療、心臓血管麻酔、ペインクリニックなどについて、その満たすべき要件を関連学会とともに検討を進めている。安全委員会を中心に、新専門医制度に連携するためのJSAPIMSの更新計画を進めている。

一連の学術集会も滞りなく行われた。専門医認定のための単位取得という理由も多いと考えられるが、第64回学術集会参加者は1万人を超えた。しかし、学会運営も合理化、効率化され、混乱は年次学術集会および支部学術集会においても起こらなかった。今後、専門医取得のための単位取得の緩和もあり、学術集会の本来の目的である学術的発展を目指したさらに充実した学術集会運営が期待される。

学術委員会と国際交流委員会を中心に、世界麻酔科学会や、東アジア麻酔科学会、米国麻酔科学会、欧州麻酔科学会、中華麻酔科学会など諸外国との協調した学術集会運営が進められてきている。国際交流委員会では活発に留学生の受け入れを進めている。しかし、留学生の語学力不足やビザの発行などの問題も生じているため、運用についての整備を進めている。

研究実施においては、倫理指針の改定に伴う対応が進められてきた。倫理委員会および学術委員会では、論文ねつ造に対処してきた。今後の学会発表や論文発表における研究倫理上の問題を明確にし、周知していく必要がある。

総務委員会は外科関連学会協議会との連携を深め、全国的なアンケートを詳細

に分析しながら、マンパワー問題などについて協調して活動し、マンパワーアンケートを前倒しで計画している。保険診療報酬の改定に向けて、学会執行部も厚労省との交渉に当たり、今後の改定も含めての折衝など積極的な関与をしてきた。社会的に注目されているのはフリーランス問題である。今後は術前、術中、術後管理において質の高い麻酔関連医療を提供することが重視されるようになる。そのためにも、周術期管理チームの実質的な活動の活性化が求められる。

安全委員会では安全に関する情報の周知に加え、Anesthesia Patient Safety Foundation (APSF) の日本語版の発行を進め、日本からの情報発信を含めたAPSFとの関連強化が図られている。「抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン」は質の高いガイドラインとしてMindsウェブサイトに掲載された。「覚醒下開頭手術ガイドライン改訂版」、「術中の心肺蘇生ガイドライン(仮称)」、「周術期禁煙ガイドライン」など、多くの安全に寄与するガイドラインの作成を進めるとともに、既存のプラクティカルガイドの英文論文文化を進めてきている。

安全委員会および関連領域検討委員会と協力して安全な無痛分娩の普及に取り組んでいる。本学会としての無痛分娩を安全に行うための声明を出すとともに、質の高い産科麻酔を提供するための戦略を立て、実践することが強く求められている。

米国Bostonで開催された第9回 International Symposium on the History of Anesthesia (ISHA)で行われた開催地選考委員会において2021年の神戸でのISHA開催が決定した。麻酔博物館委員会は、展示物の充実や整理や台帳作成、外国語パンフレットの作成などを進めている。会員からの展示物の提供についてもご協力をお願いしたい。

広報委員会はHPの刷新を含め、NEWS LETTERやメールマガジン、フェイスブックなどで広範な広報活動を繰り広げている。学術集会参加者の増加に加え新専門医制度の動向も明らかになりつつあり、財務上は健全な運営となっている。強固な財政基盤の基にどのように事業展開を行うかが焦点となる。男女共同参画やハラスメント対策などもさらに事業を推進していく。

本学会は公益社団法人として国民の医療増進のため、質の高い麻酔科医療を提供するために積極的な活動をしていく必要がある。そのためにも、会員の理解と協力が不可欠である。今後とも学会運営への積極的な参加をお願いしたい。

第65回学術集会専門医共通講習および麻酔科領域講習について

受講者は日本専門医機構認定専門医更新のための単位が取得できます。事前予約を専用HPで5月7日(月)正午まで受付けております。コースの申し込み、変更取り消しに関する注意事項について、申し込み画面の案内を必ずよくご確認ください。

専門医共通講習

事前予約または当日申込が必須となります(当日申込は空きがある場合のみ可能です)。

*出席対象は会員のみとなり、非会員の方は本講習会を受講いただくことはできませんのでご注意ください。

*コースの詳細および登録方法、その他注意事項について第65回学術集会事前予約案内ページをご確認ください。

*各講義には会場の都合上、定員がございます。満席になり次第、受付終了とさせていただきますのでご了承ください。

参加費 学術集会参加費を含む

参加単位 参加者には、日本専門医機構 認定専門医更新申請の際の専門医共通講習として1時間の講義で1単位が付与されます。演者、座長は登録なしで単位付与となるため、事前予約は不要です。

麻酔科領域講習

会員の方：事前予約または当日申込が必須となります(当日申込は空きがある場合のみ可能です)。

*コースの詳細および登録方法、その他注意事項について第65回学術集会事前予約案内ページをご確認ください。当日申込をされる方は、学術集会会期中に、学術集会受付でお申し込みください。

*非会員の方：学術集会会期中に、学術集会受付でお申し込みください。(事前予約なし)

*各講義には定員がございます。満席になり次第、販売終了とさせていただきますのでご了承ください。

参加費 1講義：1,000円

参加単位 参加者には、原則として1講義1単位のリフレresherコース参加単位が付与され、また日本専門医機構 認定専門医更新申請の際の麻酔科領域講習として1単位が付与されます。

専門医共通講習・麻酔科領域講習共通注意事項

以下について、単位付与対象外となります。

*学術集会参加登録なし(当日受付未完了)

*遅刻、早退(理由を問わず)

*入室・退室記録無し(退室チェックの端末を設置していないドアからの退室含む)

(公社)日本麻酔科学会第65回学術集会 会長
広島大学大学院麻酔蘇生学 教授

河本 昌志

第65回学術集会について

第65回学術集会を、5月17日(木)～19日(土)にパシフィコ横浜、横浜ベイホテル東急、で開催いたします。本学術集会の事前予約、専門医共通講習、麻酔科領域講習、共催セミナー、宿泊予約等、各種申込を2月15日(水)より順次開始いたします。是非ご予約ください。参加人数が年々増加しているため、今回はパシフィコ横浜に加え、新しい会場として横浜ベイホテル東急を使用いたします。

第65回学術集会の一般演題の応募を締め切った結果、総数は856題となりました。参加者数が増加傾向にあるにも拘わらず、応募演題数は減少傾向にあり、昨年に続いて1,000題を下回りました。募集カテゴリー別にはほどの分野も減っています。このことは麻酔科学の学術研究の危機とも捉えられますが、それはすこし早計かもしれません。これまで日本麻酔科学会が演題募集に際して分類してきたカテゴリーは、昨今の臨床研究や研究倫理の変化をうまく反映していない可能性があるからです。統計手法と研究の内容とを見比べながら、前向き臨床研究、疫学研究、基礎実験など別の視点での分類法を採り、どの分野の研究手法に問題があるのかを知ること必要でしょう。

現在の臨床研究の実施面での厳しさは、とりわけ前向き臨床研究においては、研究調書の作成と倫理委員会承認という大きなハードルがあります。新たに施行される臨床研究法では、一般の医療も含め、医薬品等以外の臨床研究等についての検討規定を設ける可能性があります。しかし反面、良質で精選された研究が揃うことも予想されます。日本麻酔科学会としては引き続き研究を推奨する方針を堅持すべきでしょう。

今回の学術集会では、第64回でピッチコンテストを行い、研究補助金を出して研究活動の勧奨をしており、その成果の発表もあり、楽しみにしています。また学会としても大型の研究補助金の支援を始めています。こうした活動によって麻酔科学の研究の発展が活性化されることを期待しています。

プログラムは2月上旬に学術集会ホームページ (<https://confit.atlas.jp/guide/event/jsa65/top>) に掲載いたしましたので、ご確認下さい。その他、学術集会に関する各種ご案内についても掲載しております。医学生・研修医が無料で学会参加できる企画「医学生・研修医招待企画」も予定しておりますので、申し込み手続き等詳細については学術集会HPでご確認ください。

また、例年通り、セッション会場への入退場時に会員カード(ICカード)をかざしていただきます。日本専門医機構認定講習会の単位認定には事前の予約及び最初から最後まで受講して頂くことが厳密に求められますのでご注意ください。また、学術集会参加登録時には写真付き証明書の提示が必須となりますので、こちらもご注意願います。

会員カードによって収集されたデータは、学術集会参加状況、各プログラムへの参加者情報などから分析し、今後の学術集会プログラムに活かすことを目的としております。学術集会運営の改善を目的として、学術集会時アンケートも実施しております。是非、皆様のご協力をお願い致します。

事前予約に関するご案内

以下の通り、学術集会の事前予約を受け付け中です。事前予約をしていただければ、学術集会当日、スムーズな参加登録が可能となります。また、定員制の企画(日本専門医機構認定講習会、会員懇親会など)の事前予約については、定員になり次第、事前予約を終了させていただきますのでご了承ください。

事前予約期間

2018年2月15日(木)正午～5月7日(月)正午(クレジットカード決済)

2018年2月15日(木)正午～4月25日(水)正午(コンビニ決済)

参加費

事前予約(会員のみ)：15,000円

当日受付：17,000円

支払い方法

1. クレジットカード

VISA、MasterCard、JCB、AMEX、Diners Clubでのお支払いが可能です。

海外で作成されたクレジットカードの場合、お支払いいただけない場合があります。

2. コンビニ決済

コンビニ決済の場合、申込後、ご指定されたコンビニでの支払いに必要な情報が表示されます(入力されたメールアドレスにも同内容が通知されます)。期限内にお支払いをお願いします。

事前予約で申込可能な内容

	開催日	時間	参加費
Welcome Party	5月16日(水)	18:00～20:00(予定)	3,000円
会員懇親会	5月18日(金)	18:00～20:00(予定)	1,000円
共催セミナー	毎日		*学術集会参加費に含む
第17回リフレッシュコース (日本専門医機構認定 麻酔科領域講習)	毎日 *対象講習会詳細は事前予約申し込みページを参照		1コース1,000円
日本専門医機構認定 専門医共通講習	*対象講習会詳細は事前予約申し込みページを参照		無料

*多職種向けの周術期管理チームセミナーは4月2日(月)10時～5月7日(月)の期間でHP (<https://public.perioperative-management.jp/>) で受付け致します。
周術期管理チームセミナー:5月19日(土)14:00～17:00開催 参加費10,000円

注意事項

- 事前予約でお支払いいただいた費用は、いかなる事情があっても返金や次年度年会費等への振替をいたしません。
- 事前予約者であっても、会期中に受付で参加登録(参加確定)が必要です。会期中の参加登録が受付時間内に行われない場合、参加単位及び筆頭演者発表単位は付与されません。
- リフレッシュコースを含む学術集会プログラム全般に「学術集会参加」が必須ですが、第280回ICD講習会のみ、学術集会登録なしで参加可能となります。(詳細はICD協議会HP <<http://www.icdjc.jp/klist.html>>を参照)
- 予約対象の講習会は同時開催のものに重複して申し込むことはできません。また、定員に達したプログラムには申込できません。申込後のコース変更等に関する詳細は申し込み画面案内をよくご確認ください。
- ネームカードについて
第65回学術集会からネームカードはすべて受け付けにて当日出力となっております。ご了承ください。
- ICカード(会員カード)について
会期中受付での参加登録には、ICカード(会員カード)が必要です。入会されて間もない会員(未発行対象者)以外でお手元にない方は、4月9日(月)までに再発行申込をお願いいたします。会員カード再発行申請は以下の手順で行ってください。
「マイページ」→「プロフィール」→左メニューの「カード再発行申請」にて申請してください。3,000円で有料発行となりますのでお手続きください。期日までの再発行申込者及び入会者には4月下旬～5月上旬に発送いたします。ICカード(会員カード)をお持ちでない方は、会期中受付時に仮カード発行料金(1,000円)をお支払いいただきます。
- 学術集会参加登録時に写真付き証明書の提示が必須となります。
- 当日の入会申込みはできません。
学術集会参加単位、および専門医共通講習、麻酔科領域講習の単位取得を希望される方は、以下ページの「正会員として入会希望の方」を参考してお手続きいただくようお願い致します。
URL:<http://www.anesth.or.jp/info/admission/#p01>
- 撮影禁止について
第65回学術集会も講演中の撮影を禁止しております。ご協力ください。



麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会委員長 飯田 宏樹

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2017年12月までに、HPに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら anzen@anesth.or.jp までご連絡下さい。

<故障情報掲載ページ>

<http://www.anesth.or.jp/med/post-2.html>

日本麻酔科学会トップページ → 医療関係者の皆様 → 麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

▶ GEヘルスケア・麻酔器エイシスの気化器エラーについて

製品名

GEヘルスケア社 全身麻酔器 エイシス
使用年数 6年(耐用年数7年)

事象

デスフルラン全身麻酔中、突然アラームが鳴り「気化器エラー」が表示された。気化器を認識しなくなり、デスフルランの濃度調整も出来なくなった。他の麻酔器から外した気化器カセットをセットしても同様に認識しなかった。急遽TIVAに切り替えて麻酔を継続した。

原因

ログには「INFLOW CHECK VALVE FAILURE」が記録されていた。回路内の逆流を防止するバルブの不良であり、部品交換で修理対応した。

対応

当該製品において「気化器エラー」が表示された場合は、他のアラジンカセットを試すか、他の麻酔方法に切り替える。

▶ パーカー スパイラル気管チューブの屈曲について

製品名

パーカー スパイラル気管チューブ

事象

耳鼻科手術で当該気管チューブ(ID7.0mm)を使用中、呼吸回路の位置を動かした後、気道内圧が上昇した。手術終了後、気管チューブの金属ワイヤーコイルとスリップジョイント間で屈曲していた。

原因

当該製品の金属ワイヤーコイルとスリップジョイントの間隙は0.2～1.7mmであった。製造元は4mm以下を管理基準としている。過去に2件の類似事象が販売会社に報告されていた。

対応

製造元は金属ワイヤーコイルとスリップジョイント間隙の規格値を2mm以下に変更する。当該製品の使用者は外力により同部位で屈曲が起こることに注意する。

厚生労働省人事交流体験記

厚生労働省健康局難病対策課 課長補佐 田中 彰子

超高齢化と少子化、医療の高度化という局面を迎えている日本の医療はどこに向かっていくのか、施策立案の課程を直接に見てみたいと以前から思っていた。2015年5月末に日本麻酔科学会のホームページで、厚生労働省医系技官の公募についての掲載を見つけ応募し、2016年4月から厚生労働省で勤務している。医系技官の役割は、現場の状況と臨床医としての率直な意見を伝え、施策立案に生かすこと、具体的には研究の方向性の決定や診療報酬に、現場の声を反映させることが重要な役割だと思う。

人事交流者は希望部署を伝えることはできるが、必ずしもそれが通るわけではない。個人的には麻酔科医は、救急医療や災害関連業務に関する部署、血液行政に関する部署、医師の偏在対策・働き方改革などに関わる部署等、様々な部署で活躍できる可能性があると感じている。私は、留学経験があることから国際的な感染症であるエイズ対策を、と麻酔科とはあまり関連のないエイズ対策推進室に最初に配属された。一見関係なさそうであるが、手術室でのHIV感染者の受け入れ拒否の問題や、針刺し後の曝露後予防の問題、薬害エイズ患者のHIV・HCV共感染者の肝移植の研究など、麻酔科医の知見が役立つ場面も多かった。実際には、国のエイズ対策の基本方針である予防指針の改定、診療報酬改定の要求、政策研究および実用化研究の研究立案と研究費の獲得等の業務に携わることができ、非常に有意義な経験ができた。昨年夏からは、難病対策課に配属され、難病対策とともに、麻酔科とも関連の深い慢性の痛み対策に関する業務を行っている。

人事交流のメリットとして、研究費管理のノウハウが学べること、担当する分野の研究者を始め幅広い人間関係が得られること等があげられるが、私は、2年間という限られた期間でも国の施策の方向性に関する意思決定に関わることが、最も大きなメリットだと感じている。日本麻酔科学会には引き続きこの学会推薦の人事交流を継続して頂くとともに、継続性の観点からは、交流期間の専門医や指導医の維持についてご検討頂きたい。行政に興味のある麻酔科医の先生方、人事交流を考えてみては？

厚生労働省医薬生活衛生局血液対策課 課長補佐 山本 匠

私は、麻酔科専門医取得後に、「厚生労働省の医系技官に交流人事でいって、今までと違う視点で医療をみてみないか。」という話をいただきました。学生のころより、公衆衛生に関わる仕事と1度はかかわってみたいと思っておりましたので、臨床から一度離れてしまうことへの不安もありましたが、思い切って人事交流に応募しました。

そして、2017年4月1日より厚生労働省医薬生活衛生局血液対策課で勤務することになりました。現在は、血液製剤の適正使用や安全性の向上に関わる仕事をしております。といいましても、一体どんな仕事かわかりにくいと思います。例えば、適正使用の推進として「血液製剤の使用指針」が厚生労働省より出ておりますが、その改定などの業務をしております。そのほかにも、血液製剤に関わる最新の文献報告や医療機関から報告されてくる血液製剤からのHBV、HCVなどの感染事例を専門家とともに分析して、血液製剤の安全性の向上に努めております。それ以外にも、様々な案件があり、忙しくはありますが、一つ一つの案件は、やりがいのある仕事です。

麻酔科医として、これまで多くの血液製剤を使用してきました。手術室で大量出血があった場合も、血液製剤なしには、患者の命を救うことは難しいです。現在の職について9か月が経ちますが、献血者、日本赤十字社、行政、医療者、研究者、患者など多くの人々のおかげで、医療現場で血液製剤を使用することができるのだと実感しました。今後、医療に関わっていく上で基本的ではありますが、重要なことを学んでおります。

私の人事交流の期間は2年間ですが、残りの時間で医療に対する視野をさらに広げていきたいと思っております。厚生労働省で得られるものは多くあり、何をもらえるかは、その人次第です。臨床現場とは違う視点で医療と関わってみたい方、厚生労働省での勤務はいかがでしょうか。



北から南から

未来予想

札幌医科大学医学部 校長 充隆

2017年、当講座が開講60周年を迎え式典も無事に終了した今、雪化粧した景色を見ながらホッと一息ついているところでもあります。こんな時には、少し自分の興味ある分野を考えることも許されるのでしょうか？未来予想という言葉から皆さんはどんなことを思い付きますか？ドリカムの未来予想図という歌が出てくるかもしれません。しかし、私が今思うのは、音楽の分野ではなく、科学の分野についてです。多くの方が見たと思われる映画『Back to the future』に出てきた“空飛ぶ自動車”は夢があっていいですね。一方、『ターミネーター II』では、「コンピューターが人間を支配する時代が来たら、そら恐ろしい」と思いませんか？今、AI(人工知能)という言葉をよく耳にしますが、技術は誰か個人のためではなく、万人に対して利益になる進化を遂げてこそ価値あるものと思われまます。その一つに“スカイカー(空飛ぶ自動車)”があるのではないのでしょうか？これによって、渋滞解消や目的地までの時間短縮が期待できます。ただし、一台にかかる開発費は莫大でしょうから、運賃や空路整備など交通ルールを解決する必要がありますが、明るい未来を想像させますよね。

医療界へ眼を向けると、iPS細胞の研究は将来へ向けた革新に繋がることでしょう。さて、私が麻酔科領域における技術革新として期待しているものは、さらなる“可視化”の進歩です。ある日のニュースで、“ブタに移植したがん細胞を生きたまま可視化できることに成功”という記事を見たのです。これは素晴らしい技術であり、普段の麻酔に活用できないかな？と考えました。例えば、硬膜外針を進める際に椎間間隙のみが光る、CVCの際に内頸静脈だけが光るようになれば、より安全で確実な穿刺が可能に？と身勝手な想像を膨らませました。

皆様も想像の世界で未来へのタイムマシンに乗ってみることも楽しいのでは？

仕事の流儀

東邦大学医療センター大森病院 宇佐美 晶子

“百聞は一見にしかず”をこんなにも体感したことは、今までありませんでした。

ドイツの空が秋から冬へと色を変えつつある時期の2週間、フランクフルトの整形外科病院を見学する機会を得ました。末梢神経ブロックを研修する、との心構えで飛び立ちました。ところが、実際に手術室の見学が始まると、それどころではなかったのです。もちろん当初の目的のエコーガイド下末梢神経ブロックは最先端のエコー画像で感嘆しきり。

しかしながら、最新のエコー画像に私を集中させなかったのは、いかに手術室や麻酔運営システムが日本と違うのか、その面白さでした。

私が勤務する教室では日頃から『手術室の看護師』、ではなく『麻酔科の看護師』を育成するプログラムの構想について幾度となく接する機会がありました。ただ、“麻酔科看護師”という未来的な発想に、理論的には理解できても、具体的なイメージが想像できずにいました。

そこに今回のフランクフルトです。なんと堂々たる“麻酔科看護師”が各手術室で働いていたのです。

一患者一麻酔科医、の原則を崩さずに麻酔科看護師は麻酔科医とともに行動します。気管挿管やLMA挿入の介助、薬剤準備、直接的指示を受けての薬剤投与はもちろん、マスク換気も綺麗にできますし、絶妙なアドバイスも飛んできます。その心地よさ。

そして、どんな大きさの患者さんでも(日本で『麻酔困難者』となる重量級の方々の方々の多さ!)、どんな体位でも良肢位に極短時間で華麗に仕上げている見事な腕前でした。彼らは麻酔科医をサポートするのであり、外科医の補助はしません。逆に外科医側の看護メンバーは決して麻酔科医の介助には手を出しません。

完璧で、気持ちの良い棲み分け、絵に描いたようなプロフェッショナルリズム。

“目から鱗”でした。

帰国して一ヶ月、皆に見てきたことを伝えたいと興奮しておしゃべりしながら、すっかりこれまでの日常に引き戻されている毎日です。貴重な経験に大きな感謝を抱きながら…。

当直明けのご褒美

愛知医科大学病院 畠山 登

私が愛知医科大学に赴任してから7年目、さらに新病院でGeneral (=Surgical + Medical) ICUを立ち上げてから4年目になりました。年間3,500名を超える患者さんを収容しており、周術期管理を中心に麻酔科の先生方に協力いただき、安全で良好なサービスを提供しています。いろいろな事情から現在は単身赴任状態で、月に2回くらいしか自宅へ帰ることができないのですが、幸いなことに私は料理が大好きなので現在の生活を大変楽しんでます。それでも、当直勤務明けなどは料理を作ろうという意欲もなかなか出てこないのも事実であるわけなのですが、そういう私が最近ハマっているのが日本ワインです。赴任前に滞在するアパートを探しに来たときにたまたま1人でふらっと入ったお店が日本ワインをコンセプトとしたところで、それ以来ずっと「当直明けのご褒美」と称して日本ワインとそれに合わせたお料理を楽しんでいます。現在日本には二百数十箇所のワイナリーがあるそうなのですが、北は北海道から南は九州まで、実に個性豊かなワインが醸造されています。また、シャルドネやカベルネソーヴィニオンばかりでなく日本固有品種としての甲州種やマスカットベリーAは近年の醸造技術の進歩と相まって和食にも合わせやすくとっても美味しいと思います。今年名古屋で3年目となる長野ワインフェスティバルに加えて初めてとなる山梨ワインフェスティバルも開催され醸造家の方々とも直接お話出来る機会もでき、盛り上がりを見せているようです。是非、みなさまも愛知医科大学にお気軽に遊びに来ていただき、その折に夜は私が日本ワインへのご案内申し上げたく思っています。

温故知新

奈良県立医科大学 恵川 淳二

温故知新(故きを温ねて新しきを知る)は私の好きな言葉の一つです。この言葉は学問の根源かもしれません。臨床であれ研究であれ、過去を学び習熟することで、新しい治療法や予防法が生まれてくるのだと思います。原文の論語では「温故知新」の後ろに、「以て師となるべし」という言葉が続いています。過去から新しいことを知ることができれば師となることができるという意味で、教育者としても非常に重要な言葉だと思っています。

奈良は、非常に歴史のある“まち”です。神社仏閣、古墳や歴史的な趣を残す景観など多くの世界に誇れる歴史が現存しています。私たちの大学は、この歴史を学び守りつつ、そこから新たな世界に誇れるものを創り出す必要があると考えています。その一環として、奈良県立医科大学が取り組んでいるのがMedical Based Town (MBT: 医学を基礎とするまちづくり)構想です。医学や医科大学の持つノウハウを用いて、少子高齢化社会を迎える“まち”を活性化していき付加価値の高い“まち”を創り出す構想です。そして、その過程が新産業の創生や地方創生の原動力となっていきます。奈良県立医科大学のお膝元である今井町は、かつて江戸時代は幕府も一目置く財力を備えた商業都市として名を馳せていました。現在もそのまち並みは保全され重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。しかし、近年の少子高齢化の影響で空き家も目立つようになってきていました。現在、我々は奈良県、橿原市、そして早稲田大学と協力をして、この今井町をMBT構想で活性化させるプロジェクトを進めています。歴史に学びかつての今井町の活気を取り戻すとともに、医学を元に『まちなか医療』を展開してさらに人々が安全に快適に暮らせる“まち”づくりを目指しています。温故知新の精神のもと、歴史ある奈良の“まち”から新たな歴史が世界に発信される日は近いと確信しています。

2018年度 第57回麻酔科専門医認定試験 実施予定について

教育委員会・認定審査委員会

2018年度第57回麻酔科専門医試験の実施予定をお知らせいたします。

試験日

▶筆記試験

2018年9月30日(日)

▶口頭試験・実技試験

2018年10月5日(金)～2018年10月7日(日)

試験会場

▶筆記試験会場

2会場で実施(東京会場・神戸会場)

●TOC有明(東京会場)

●神戸ポートピアホテル(神戸会場)

▶口頭試験・実技試験会場

1会場(神戸会場)で実施

●神戸ポートピアホテル

※日程・会場に変更がございましたら、学会HPにてお知らせいたします。

APSFニュースレター 日本語版 発行について

安全委員会

本学会と麻酔患者安全財団(The Anesthesia Patient Safety Foundation, APSF)は、先頃、APSFニュースレターを日本で作成し配布するため、提携を結びました。共通した目標は、周術期の患者の安全教育を改善することです。APSF ニュースレターには12万2千人以上の読者がおり、私たちはこれを全世界で25万人以上に増やしたいと考えています。これから、さらにスペイン語、中国語、ポルトガル語、フランス語、ロシア語の5カ国語によるニュースレターを発行する予定です。今回、このプロジェクトの日本語版第1号を発行する運びとなりました。今後、内容を充実させてまいります。

記事は、日本麻酔科学会HP 12月14日付けの重要なお知らせ「APSFニュースレター日本語版 発行について」をご覧ください。

2017年度の年会費をお支払ください

2017年度年会費の支払締切日(2017年9月30日(土))が過ぎております。まだお支払でない方は、至急お支払ください。

会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従ってお手続き下さい。

2017年度かつ前年度の2016年度年会費 未納の方へご周知ください

●2017年9月30日に2016年度年会費に未納があった方は、「学会の発行する会員向けの印刷物及び電子的情報の配布を受ける権利」「認定医、専門医、指導医等の資格の申請をする権利」を停止させていただきました。2年度分を完納いただければ権利は復活します。

●2018年3月31日に2016年度年会費に未納がある方は、2018年3月31日時点で退会となります。

再度会員になる場合は入会の手続きを行っていただく必要があります。ただし再入会時に従前の専門医等の認定資格は復活せず、認定医から再度取得となりますのでご留意下さい。

領収書について

会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従って出力下さい。(1回のみ出力可能です)

※年会費以外の領収書発行については左側メニューボタン「会費以外の領収書発行」より可能です。

会員(IC)カード発行について

第65回学術集会に間に合う会員(IC)カード申込期日は2018年4月9日(月)となります。期日までの再発行申込者及び入会者には4月下旬～5月上旬に発送いたします。期日以降の再発行申込者及び入会者には8月下旬に発送する予定でございます。会員(IC)カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録(チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退室に必要です。紛失された方は会員専用ページ「マイページ」内「プロフィール」、左側メニューボタン「カード再発行申請」からお手続きを行ってください。当日持参がない場合は、会場で会期中使用可能なカードを有料発行頂きます。

入会について —ご周知下さい—

毎月10日までにWEB申込及び必要書類の提出が完了している方を審査し、同月15日付けで入会承認可否のメールをいたします。承認された方はメールに記載されたURLから、期日までにクレジット決済で年会費を入金して頂くことになり、入金完了時点で会員となります。

※一旦退会后、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行って下さい。

直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと合わせて入会年度の年会費をお支払い頂き、再入会となります。ただし、専門医等の認定資格は再入会しても復活しません。再度認定医から取得し直していただく必要があります。

※学術集会の会員として単位付与される一般演題応募、事前予約や専門医機構関連講習申込みやそのシステム利用、参加登録は、申し込み時点や参加時点で入会の手続き(申請～支払い)を完了された方に限ります。

尚、第65回学術集会当日の入会申込みはできませんので、会員として参加等をされる場合は2018年4月10日までに入会手続きが必要となります。

会員WEBページ「マイページ」について

会員WEBページ「マイページ」(会員情報管理WEBページ、年会費支払、単位管理など)が2016年10月より変更になりました。

ログインページURL: https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx

※日本麻酔科学会HP トップページ「重要なお知らせ」欄の上に掲載している「『マイページ』 ログイン」からもログイン可能です。

※ログインするためには会員番号とパスワードの入力が必要です。会員専用HP「Datura」のログインID・パスワードとは異なります

こちらの会員WEBページ「マイページ」のご使用について下記にまとめさせていただきます。

【マイページから行っていただけの手続き】

- ① 年会費支払、領収書発行
- ② 会員情報変更
- ③ 各種領収書の発行
- ④ 会員カードの再発行申請
- ⑤ 単位取得状況確認
- ⑥ 学術集会事前申込
- ⑦ Eラーニングの受講
- ⑧ 認定資格入力、書類作成

【マイページから行っていただけない手続き】

⑨ 抄録の受付、査読

※①から⑤に関しましては、マイページにログインいただいた後「プロフィール」から、手続きを行っていただけます。

※⑥に関しましては、マイページにログインいただいた後「学術集会事前受付」から、⑦に関しましては、「e-Learning」からそれぞれ行っていただけます。

※⑨については別システムとなり、別途メール連絡を以ってご利用頂くこととなっております。

会員WEBページ「マイページ」変更のご案内
および登録住所の確認のお願い

年会費支払、会員情報変更のWEBページを新システムに移行致しましたが、会員の皆様にご変更頂きました会員情報について情報が一部反映されていない場合がございます。お手数おかけ致しますが、必ずご確認頂きますようお願い致します。

メールアドレス・勤務先・住所の確認・変更を
お願いします

メールアドレスや勤務先、自宅住所が変更になった場合は、忘れずに会員情報の変更も行ってください。会員専用ページ「プロフィール」内「会員情報更新」より変更が可能です。会員情報が更新されていないと、重要なメールや発行物が届かず、先生ご自身に不利益が生じる可能性があります。

※勤務先が認定病院の場合は、必ず、施設番号欄横の「検索」から施設名検索を行い、選択してください。

※認定病院情報(住所・電話番号・代表専門医など)の変更については、認定病院の代表専門医より変更申請が必要です。個人での変更は出来ません。

ログインページURL : https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx

■メールについて

●弊会からのメールは「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」または「@atlas.jp」ドメインからお送りします。「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」および「@atlas.jp」ドメインを受信できるように、お使いのメールソフトで設定してください。

●携帯電話のメールアドレスは利用できません。

●認定申請の結果など、重要なお知らせもメールでご連絡します。正しいメールアドレスを登録した上で、必ずメールを確認するようにしてください。

●重要なお知らせについては、日本麻酔科学会ホームページ及びマイページにニュースとしても掲載します。併せて確認するようにしてください。

医師賠償責任保険の送付、ならびに医師賠償保険適用
開始時期と入会時期について

弊会会員向けの医師賠償責任保険に関する更新のご案内書類については、2018年2月頃に会員の皆様へ送付致しました。各自お手続きをお願いいたします。また、弊会会員向けの医師賠償責任保険は入会後に適用されます。

■医師賠償責任保険を2018年4月1日から適用したい

⇒2018年3月までに入会してください。

3月に入会するには、2018年3月10日までに申込及び書類提出→3月15日に承認→承認通知に従い2週間以内に2017年度年会費を入金してください。

ただし、2018年4月から2018年度になりますので、4月以降に2017年度の年会費支払が必要となります。

※2018年4月以降に入会した場合、保険は入会後の適用となりますので、4月1日からの適用はできません。

上記以外のその他保険に関する詳細事項・お問い合わせにつきましては、ご案内しております各保険会社にお問い合わせください。

編集後記

平成もついに30年を数えることとなり、来年には新しい年号に変わることが現実となりました。一体どのような年号になるのでしょうか。30年前に「平成」という名を時の小淵恵三官房長官(小淵優子氏の父、84代首相)が記者会見で披露した時は、なんとも変な名前だなあと感じたことを昨日のように思い出します。しかし今では全く違和感なく平成という時代を生きていますね。本当に時の過ぎゆく流れの早さに驚くばかりです。さて本年に入り専門医機構による新しい専門医制度も紆余曲折を経てようやく動き出そうとしております。若手麻酔科の先生方もこの先どうなっていくのか気を揉んでおられると思いますが、広報委員会としてもこの問題を捨ておけず、できる限り多くの情報を会員の皆様にお届けしようと考えております。学術集会でのポイント獲得の仕組みなどまだまだ十分とは言えず皆様に御迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、ぜひ皆様から建設的な御意見をお寄せいただければと存じます。そして本年5月に横浜で開催される第65回学術集会で皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

(広報委員会委員 橋本 悟)



マシモジャパン株式会社
〒169-0074
東京都新宿区北新宿2-21-1
新宿フロントタワー24階
TEL:03-3868-5201 FAX:03-3868-5202
<http://www.masimo.co.jp>

公益社団法人 日本麻酔科学会
NEWS LETTER

2018 Vol.26 no.1
<http://www.anesth.or.jp>
2018年2月20日発行

©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て(公社)日本麻酔科学会に帰属いたします。
無断複製・転載を禁じます。

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 足立 健彦
[広報副委員長] 白神 豪太郎
[広報委員] 加藤 里絵、渋谷 博美、橋本 悟、藤中 和三、萬 知子
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号
神戸キメックセンタービル3階
TEL:(代表)078-306-5945
(認定関連問合せ専用ダイヤル)078-335-6078
FAX:078-306-5946

◆制作 株式会社杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL:03-3910-4311 FAX:03-3949-0230